

週刊朝日
増刊号
2000・4・5 520yen

漢方

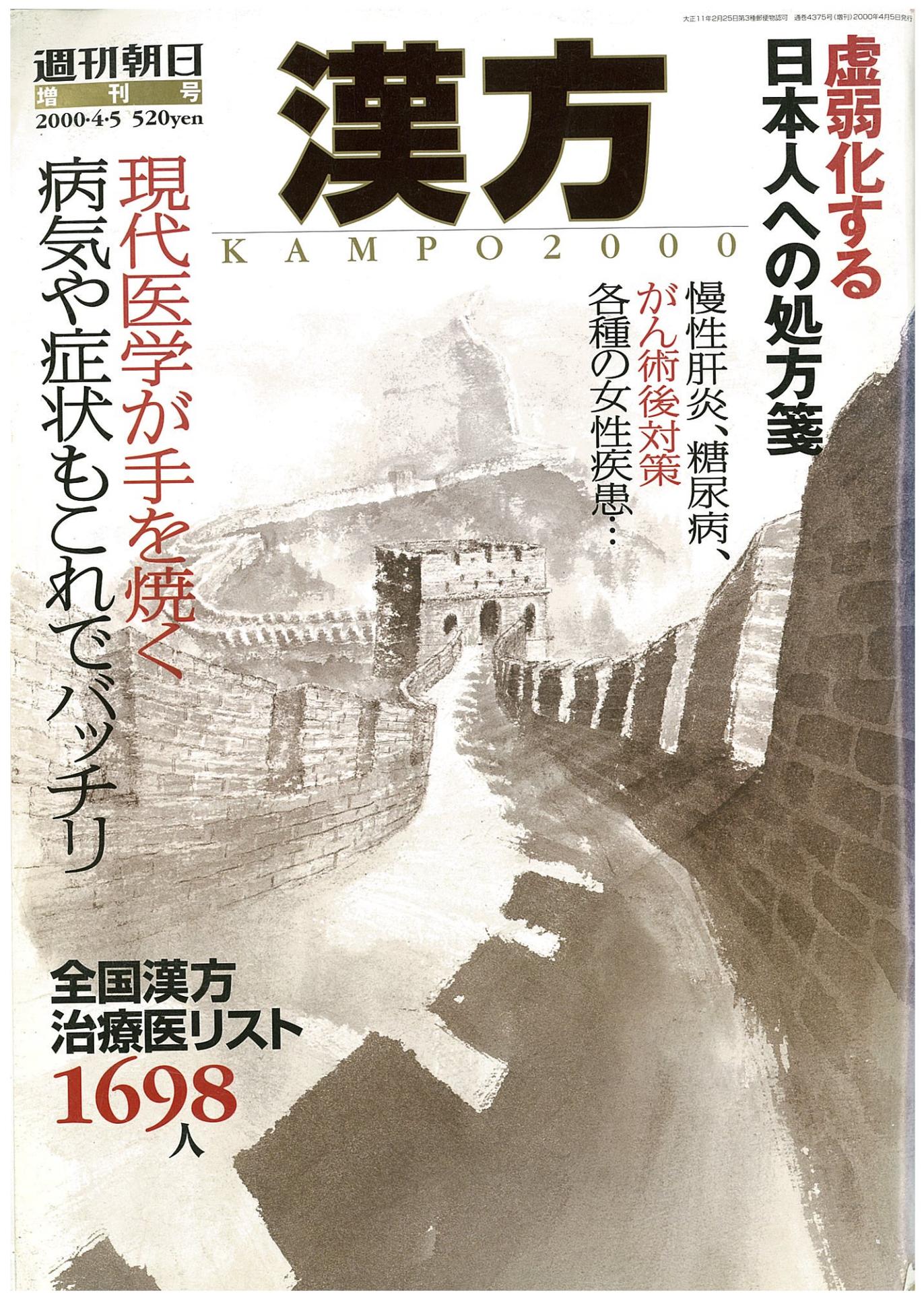
K A M P O 2 0 0 0

虚弱化する
日本人への処方箋

慢性肝炎、糖尿病、
がん術後対策
各種の女性疾患…

現代医学が手を焼く
病気や症状もこれでバッチリ

全国漢方
治療医リスト
1698
人



子供も大人も 「虚弱化」する 日本人への処方箋

漢方でしか治せない
 病気や症状がこれだけある！

— 今回は、比較的若手の漢方研究医の方々にお集まりいただきました。レディーファーストで、関口先生からお話を。漢方に関心をもたれたきっかけなどから……。

関口 きっかけは自分の子供の風邪からです。数年前、風邪には漢方薬がよく効くというので、使いだしたら結果がいんですよ。いま小学一年生ですが、麻黄湯をよく飲ませます。それでだめなときは大青竜湯（注1参照）。ただ、風

邪のときは母親が解熱剤を使いたがるんです。私は絶対に漢方でと粘るんで、いつも闘ってます。

秋葉 お母さまも医者さま？

関口 いえ、普通の主婦です。

秋葉 私が小児科に在籍していた二十年前にはアスピリンなどが解熱剤として使われていました。が、いまは熱は一つの症状で、熱その

ものが悪さをしているのではない、それだけをターゲットにすると全体を見失ってしまう、といわれるようになってきました。

関口 現代の医療では、やたらに熱を下げてはいけないという基本的なコンセンサスはできていますね。でも、自分の子供が五時間も六時間も三九度、四〇度の発熱を続



伝統医学研究会理事長・あきば病院(千葉県蓮沼村)院長
秋葉哲生

あきば・てつお
 1947年、千葉県生まれ。
 1975年、千葉大医学部卒。
 旭中央病院などを経て89年から現職。
 老健施設ハートビレッジ施設長、
 日本東洋医学会評議員。



横浜市立大学医学部附属
 市民総合医療センター
 泌尿器科医師
関口由紀

せきぐち・ゆき
 1963年、神奈川県生まれ。
 1989年、山形大医学部卒。
 横浜市立大附属病院などを経て98年から現職。
 日本泌尿器科学会専門医、指導医。



北里研究所東洋医学総合研究所
 (東京都港区)漢方診療部部長
渡辺賢治
 わたなべ・けんじ
 1959年、埼玉県生まれ。
 84年、慶応大医学部卒。同内科学教室、
 東海大医学部免疫学教室、
 米国留学を経て95年、北里東医研へ、
 96年から現職。
 日本東洋医学会評議員。

けると、やっぱり迷いが……。
渡辺 アメリカでは、子供が風邪をひくと水風呂に入れたりします。とにかく熱を下げようと。それは間違いで、本間行彦先生（北海道大学保健管理センター教授）らのデータを見ると、一時的に熱を下げると、かえって風邪の治りを長引かせると。私も子供には麻黄湯をよく使います。これは汗が出ないときに使う薬ですね。麻黄の主成分、エフェドリンの覚醒作用で眠れなくなるかと思うんですが、そういう状態の子供に飲ませるとクーツとよく寝ちゃう。寝て汗をかくので、翌日の運動会には元気に参加できたりする。使い方さえうまくいけば、覚醒作用は出ないでぐっすり休める。

秋葉 たとえばインフルエンザです

と、ふつう四、五日は熱が続きます。漢方薬を飲んで一日で下がるということはない。だけど、漢方薬は全身状態を損なわないので、飲んでいる間、けっこう食欲がある。熱がピークを過ぎて一度でも下がると、わりと元気に飛び回ったりしますよね。全身状態がいいので、必ず治るといって確信をもって見ていられる。そこが、漢方薬は風邪に強いといわれるところだと思います。

学齢期前の子供ですと、風邪をひくのは一年間に平均六回くらいです。それ以上ひくのを、ほくは「易感冒児童」と呼んでます。風邪をひきやすい子という意味で。二カ月に一回以上、風邪をひく子ですね。そういう子には西洋薬より漢方薬がよく効くんです。

渡辺 私の子供は現在八歳と四歳ですが、アトピー性皮膚炎の傾向があつて、生まれてからずっと黄耆建中湯を飲んでいました。最初は「経母乳投与」をやりました。つまり母親に漢方薬を飲ませて、お乳を通じての間接投与。いまは自分で飲み、肌はツルツルです。漢方で頭がよくなることを期待したのですが、とりあえず体のほうだけは健康ですよ（笑）。経母乳投与で、これまでに何人ものアトピーの乳児を治しています。

関口 子供の患者さんの場合、漢方薬をいつまで飲み続けたらよいかどのようにご指導を？

渡辺 アトピーだと、症状が一応取れて、体質改善ができたかと判断できれば、一日おき、二日おきというように、だんだん服用回数を減らしていく、それで症状が出なければ、そこで中止。何かあったらまた来院してください、というやり方です。症状によっては何年という単位で飲ませます。ただ、小さいころにしっかりと治しておけば、その後は再発しませんね。

秋葉 体質改善と関連しますが、さほどの易感冒児童を持つお母さん方に、どのくらいで漢方薬が効

いたかを尋ね、データをまとめたことがあるんです。一カ月では全くわからない、二カ月で一部の人がんばるとなくよくなった、三カ月でほとんどの人がよくなり、風邪をひかなくなった、という結果が出ました。

慢性疾患の場合、三カ月単位で飲むことを勧めます。手ごたえが出てくるのが三カ月です。その間は処方を変えず、食養生もしてもらって、いい方向にいつているかどうか観察していく。

渡辺 いま、日本人全体が虚弱化している傾向がありますね。私の専門の免疫学の立場から言いますと、子供は、母体内にあるときは異物ですから、細胞性免疫（リンパ球が関与する免疫。ウイルス、細菌などへの感染防御や移植拒絶反応なども含まれる）が強いと、お互いに拒絶反応を起こしてしまう。それでは困るので、細胞性免疫が抑えられています。

この細胞性免疫は生まれてからトレーニングを受けてだんだん強くなっていく。ところが、現代社会ではトレーニングのチャンスが減っていると思うんです。核家族化や清潔になりすぎた生活環境の

秋葉 水が滞りやすい水毒の傾向のある人には、あまり飲まないように、と言います。夜寝る前にコップ一杯の水を飲みなさいと言ったら、一杯より二杯のほうがいいだろうと、たくさん飲んでいて患者さんがいました。この人には処方した漢方薬がなかなか合わず、効かない。どうもおかしいと思ったから、水をよけいに飲んで、体のバランスを崩していたんですね。

秋葉 栄養医学をはじめ現代の日本の医療の問題点は、欧米のデータがどうだからとか、欧米人にこれがいいから日本人にも、というところがまだまだ多すぎると思うんです。日本人の体質とか風土とかを考えた栄養、健康指導が必要ですよ。秋葉 とここで、高齢者に対する漢方治療はこれからますます重要になってきますね。



「その気にならない」状態はバイアグラでは治らない

秋葉 水が滞りやすい水毒の傾向のある人には、あまり飲まないように、と言います。夜寝る前にコップ一杯の水を飲みなさいと言ったら、一杯より二杯のほうがいいだろうと、たくさん飲んでいて患者さんがいました。この人には処方した漢方薬がなかなか合わず、効かない。どうもおかしいと思ったから、水をよけいに飲んで、体のバランスを崩していたんですね。

秋葉 水が滞りやすい水毒の傾向のある人には、あまり飲まないように、と言います。夜寝る前にコップ一杯の水を飲みなさいと言ったら、一杯より二杯のほうがいいだろうと、たくさん飲んでいて患者さんがいました。この人には処方した漢方薬がなかなか合わず、効かない。どうもおかしいと思ったから、水をよけいに飲んで、体のバランスを崩していたんですね。

せいで。そういう欠陥を補うのが漢方薬ではないでしょうか。小さいときはほとんど体質は変わりやすい。腸の免疫が確立するのは三歳ぐらいですが、それまでに、ある程度、方向づけをしてあげると、それが一生持続します。小学生、中学生へと年齢が上がるにつれて細胞性免疫の強化は難しくなっ



危険な食習慣の変化 油脂のとりすぎは大問題

きます。いまの大学生を調べてみても、細胞性免疫が落ちている例がかなり見られます。秋葉 盆栽でも、最初、枝をいいほうに向けてやると、そのまま伸びていく。漢方薬はそういう方向づけの効果があるということですね。ところで、食養生も漢方とは切り離せませんね。

秋葉 どうしてですか。現代人は規則正しい生活が守れないので、まず、それを直そうということですね。養生の本に、おなかを空くまで食べない、とある。丁先生の言っておられることと全然違う。が、よくよく考えてみたら、おなかを空くまで食べないという生活をいまの若者にさせ

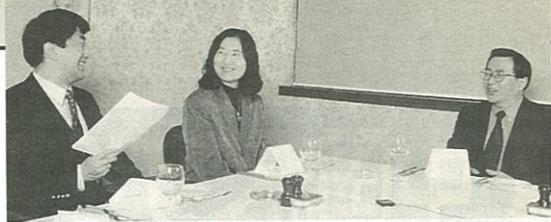
ても、病気はよくなるらない、あまりに不摂生すぎて。まずは規則正しく食べて、その間に漢方薬を飲む。それを半年なり一年なり続けることから始めないと養生は成り立たない。どんな食品がいいとか、悪いとかはこの際、後回しというわけですね。

秋葉 どうしてですか。現代人は規則正しい生活が守れないので、まず、それを直そうということですね。養生の本に、おなかを空くまで食べない、とある。丁先生の言っておられることと全然違う。が、よくよく考えてみたら、おなかを空くまで食べないという生活をいまの若者にさせ

でも、病気はよくなるらない、あまりに不摂生すぎて。まずは規則正しく食べて、その間に漢方薬を飲む。それを半年なり一年なり続けることから始めないと養生は成り立たない。どんな食品がいいとか、悪いとかはこの際、後回しというわけですね。

秋葉 リノール酸の摂取過多は非常に大きな問題だと思います。日本の食用油の消費量はほとんど増えている。リノール酸に限らず、油脂を大量にとれば体に悪影響を与えないわけがない。しかも、日本人は歴史上、こんなに油脂をとった経験がなく、非常に危険な実

験が行われていると言っていると思います。二宮金次郎は酒匂川の堤に菜種を栽培して油を取ったけれども、それは勉学の灯火に使った。天ぶらの油にして食べたわけではないんです。戦前のように一日の油脂の摂取量が一〇〇g程度では、カロリー不足で当然、弊害が出るでしょうが、現代人の摂取量は多すぎる。九五年には平均四〇〇gに増えている。フライドチキンばかり食べている子供だと六〇、八〇gはいきますよ。こういう日本の食習慣の変化は、ほんとに危険です。漢方薬を飲む、飲まない以前の問題です。



漢方治療で血性胸水が減少 がんと上手に共存する患者

関口 少ないです。大きな病院では、希望しても処方してもらえないことがまだあるからでしょうか。でも、普通の人には副作用がないというところがはつきりしてきたので、どんどん処方される時代がすぐくると思います。ただ、いくらバイアグラを飲んでも、その気にならない、性欲が起らないという状態は治らない(笑)。気持ちのほうまで改善するには、やはりバイアグラにプラス漢方薬、ということになるんじゃないでしょうか。

とは、いかにストレスがインポテンスに関係しているかを示すものだと思います。 秋葉 やはり、バイアグラなどより、全身の調和をとる漢方薬のほうがいいですね。 関口 若い人のインポテンスには六味丸や八味丸はどうなんですか。 秋葉 若い人に八味丸を出すことは少ないですが、六味丸はときどき使います。補中益気湯のような補剤でいい結果をもたらすこともあります。漢方でいう「気」はすべてを総括する最上位のもので、桂枝加芍薬湯とか小建中湯とか、脾胃つまり胃の機能を補う薬が有効なこともあります。 がん患者らのターミナルケアで漢方の役割はどうでしょう。

渡辺 昨年、東西医学を融合するよくなケアをやるうと、内科、外科、麻酔科、漢方、鍼、看護、ソーシャルワーカーらのスタッフがチームを組んで始めました。まず初めに行えることは疼痛緩和です。

漢方の役割は、弱っている患者さんの体力や抵抗力を高めるベアアップです。食欲がなくて点滴に頼っていた患者さんが物を食べられるようになる。自分の口で食べられることが大事だと思うんで

す。がんで食欲が落ちていている患者さんでも、漢方薬を飲むことで食欲が出る。そういう面ではかなり役に立っているのではないのでしょうか。 秋葉 便秘には漢方でどういう対策を？ 渡辺 大腸を大胆に使います。MSコンチン(徐々に効くモルヒネ錠剤)服用による便秘は頑固ですけれど、大腸はけっこう効きます。 秋葉 大腸の通常量は一グラぐらいですが、どのくらい飲むんですか。 渡辺 三、四グラです。 秋葉 それでMSコンチンの継続服用ができるようになるんですね。 渡辺 はい。抗がん剤導入時に吐き気のあるときは小半夏加茯苓湯の煎じ薬を冷たくして出します。 ターミナルケアとは違いますが、がんの患者さんで術後のフォローが漢方でうまくいっている例があります。六十歳の女性で、来院したときは、乳がんの肺転移があった。肺手術の前後は体力が落ちるので、茯苓四逆湯(注2参照)や十全大補湯を状態に応じて使い分け、それで調子がよくなってたんですが、今度は息苦しいと言いだしたんです。

がん性胸膜炎で胸水がかなりたまっていたんです。すぐ外科に入院してドレーナージ(誘導管による排液法)や化学療法をやったんですが、血性の胸水がちつとも減らない。その方は漢方好きで、私が回診にいくたびに「漢方薬でなんとかしてください」と。そのうち、体力が落ちて疲れるので、化学療法はもうやらない、と。 で、化学療法をやめ、漢方だけになって、私が助けないと死んでしまうわけです。その時点で血性胸水が半年以上、出続けていた。そこで、十全大補湯に紫根(抗炎症作用などがある)を加えて処方したら、みるみる血性胸水が減り、出なくなつたので退院。それが去年の一月ですから、かれこれ一年余、ずっとお元気、いままも通院して来られます。がんが小さくなったかという点、そうではない。CTを撮ると、がん自体はちつとも小さくなっていない。がんも共存している形ですね。

要性が欧米でも盛んに言われているですね。 関口 国際学会に参加したとき気づいたのですが、欧米でも慢性的膀胱炎患者にクランベリーのジュースを飲ませたり、頻尿に鍼治療をしたりしていました。西洋医学でどうにもならない病気に対しては、欧米でも日本と同じようなアプローチをする。治療法のない疾患に対する東洋医学の役割は世界的に評価されつつあると思います。 渡辺 アメリカでも急速に研究が進んでいます。私が留学したスタンフォード大学でも代替医療の教室ができて、研究と臨床の両方を行っています。米国立補完代替医療センターが出版している補助金も、私たちがアメリカを離れた一九九五年には約五億円だったのが、最近では十倍以上になっています。世界は私たちが思っている以上に速く動いているという感じがします。欧米でも日本の漢方のよさを理解してくれる人も増えてきています。

ツリ、ポツリとあった。それが、二十一世紀にはきちんとした形で評価されるだろうと。単なる代替医療ではなく、西洋医学とは別の独立した医学として体系づけられていく。漢方にとつて楽しみな時代に入ると思います。 渡辺 二十一世紀の東西医学は、同じ分野で融合するのではなく、得意な分野、不得意な分野を分けることだと思っんです。血糖を下げるのは西洋医学にかなわない。それはそっちに任せて、漢方では血流改善とか、合併症の予防に力を入れるとか。両方を組み合わせることでは最高の医療が提供できる。 日本の漢方の特徴は、西洋医学の教育を受け、その資格を持っている人がやっていること。両方の医学を理解している日本の医師を中心に、漢方のよさを世界に発信できればいいなと思っんです。

いました。尿パッドを一日十枚以上も交換しなければならぬ重症の尿失禁がありました。西洋医学的な、すべての治療をやったけれども全然よくならない。で、茶、姜、朮、甘湯を使ったら、一発でよくなりました。劇的な経験でした。 秋葉 五年ぐらい前から痴呆症状が出てきた七十五歳の女性が入っていました。特別養護老人ホームに入っていて、夜になると徘徊する。これまでに何回かイレウス(腸閉塞)を起こしていて、手術後の癒着の跡がある。イレウスの手術を受けたとき、点滴の管を抜いて血まみれになったりするので、病院が音を上げ、帰されちゃった。 私が診ることに、大建中湯を注射したんです。お尻から、エキス剤十五分を微温湯に溶かし、五回ずつ三回に分けて洗腸した。一回目の洗腸から二時間後に水様の便があふれ出て、おなかの腫れがだいぶ引いてきた。三時間後に

二回目の洗腸をしたら、排便が三、四回続けた。そのあと水分だけとらせて三回目をしたら、大量の水様便が出て、すっかり元に戻ったんです。 渡辺 似たような経験があります。当直のとき、イレウスの患者さんが苦しがるので、中、建中湯(小建中湯と大建中湯を合わせた処方)を、通常の三倍ぐらい飲ませたんです。それで腸が動きだして、翌朝、もう一回飲ませたら元に戻りました。漢方薬は即効性もあるんだなと、あらためて思いました。 秋葉 漢方薬というのは、その人の持つているものをいろいろと変えて、ときには、おだてたり、やりわり抑えたりして、本来持っているものを生かす。つまり、ケアの薬です。高齢の要介護者の医療では、高血圧とか脳卒中とか高脂血症とか、個々の病気を取り上げても意味がないことが多いんです。それよりは、食欲があるか、楽しく過ごしているか、活発に会話を交わしているか、いきいきしているか。そういう問題のほうが大きいんです。それを解決するのが、全身状態を診る漢方ですよ。 漢方を含めた「代替医療」の重

秋葉 二十世紀の終わりに、われわれが気づいたことは、ある種の病気に関しては漢方薬しか効果を発揮し得ないということ。そういう医療の領域が離れ小島のようにポ

注1 ●大青竜湯 麻黄、杏仁、桂枝、生姜(乾姜)、大枣、甘草、石膏で構成。発熱、悪寒などによる。 注2 ●茯苓四逆湯 茯苓、甘草、乾姜、人参、附子で構成。吐いたり下痢をしたりして体力が衰えた人に使う。

